

平成 25 年 10 月 23 日

第 23 回日本医療薬学会年会実施報告書

第 23 回日本医療薬学会年会
年会長 眞野 成康
(東北大学病院 教授・薬剤部長)

事業名： 第 23 回日本医療薬学会年会

主催者名： 一般社団法人日本医療薬学会

年会長：眞野 成康（東北大学病院 教授・薬剤部長）

会 頭：安原 眞人（東京医科歯科大学医学部附属病病院 教授・薬剤部長）

後 援： 一般社団法人日本病院薬剤師会、宮城県病院薬剤師会
公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人宮城県薬剤師会
日本薬科機器協会

実施日程： 平成 25 年 9 月 21 日（土）～ 22 日（日）

実施場所： 仙台国際センター

〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山無番地

東北大学百周年記念会館川内萩ホール

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 40

東北大学川内北キャンパス

〒908-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41

会場数	口演会場	: 14
	ワークショップ会場	: 1 (薬科機器協会 WS 会場 : 1)
	ポスター会場	: 5
	展示会場	: 2

年会の趣旨

第23回日本医療薬学会年會を、平成25年9月21日(土)、22日(日)の2日間、仙台市青葉区の仙台国際センター、東北大学百周年記念會館川内萩ホール、並びに東北大学川内北キャンパスにおいて開催した。本會は、病院や薬局などの医療現場で活躍する薬剤師を中心に、薬系大学の教員や学生、製薬企業関係者なども参画し、平成2年の設立から年々活動範囲を拡げている学会である。特に年に一度開催される年會は、患者へより良い医療を提供するために、日頃の薬剤業務や臨床研究等の成果を発表し、医療薬学に関する最新の知識や情報を交換しながら、相互に能力向上を図りつつ親交を結ぶ場を提供している。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東日本の沿岸部全体に未曾有の被害をもたらした。特に岩手県、宮城県、福島県では津波被害やそれに付随する福島第一原発事故によって、未だに大きな試練に晒されている状況にある。2年半の月日が経過しても未だ支援の必要な医療機関が存在する中で、医療を中心に力強く復興していききたいとの願いを込めた「再興」。薬剤師を取り巻く環境や、社会の求める薬剤師の姿が近年大きく変化するのに伴い、業務への取り組みや考え方を見直していくための「再考」。病棟薬剤業務実施加算の新設を含め、チーム医療における薬剤師の果たす役割が益々大きくなる中で、薬物療法をベースにした医療の質の向上を通じて「最高の医療」を創り上げていこうという意気込みを加え、年會テーマを「再興、再考、創ろう最高の医療の未来」とした。

特別講演は、細胞シート工学の研究により飛躍的前進を遂げた再生医療について「再生医療の実現と普及への挑戦」、これからの薬剤師や医療の未来について「未来を創造し、描くことについて」、激変する環境の中における薬剤師のあるべき姿について「薬剤師職能の確立に向けて」の3演題を企画した。教育講演は、薬剤師が有効かつ安全な薬物治療に貢献するための基礎と応用として「薬物反応性の個人差」、「分子標的薬剤の有害事象」、「日本人の死因第3位に上がった肺炎！抗菌薬治療はどこまで進んでいるか？」の3演題を企画した。また、市民公開講座は健康食品やサプリメントに焦点を当て、「いわゆる健康食品やサプリメントの安全性について」及び「食品やくすりの安全性評価のしくみと私達の生活」の2演題を企画した。シンポジウムはすべて公募とし、医療復興やチーム医療、多職種連携、病棟業務のほか、各専門領域の講習会を兼ねたシンポジウムや教育、災害医療など、多岐にわたる内容で、過去最高の43シンポジウムを開催した。また、会場が大きく3つに分散しているため、関連性のあるテーマを同一会場で聴講できるようプログラム構成を工夫した。各シンポジウムの入場者数を予想し、それを基に会場を決定するとともに、席数の少ない会場には同時中継会場を設置した。さらに各会場間の移動を容易にするためのシャトルバスを運行した。

本年會が、医療薬学に関する最新の知識や情報交換の場となり、薬剤師業務の改善、新展開、あるいは医療の質向上の一助となることを期待し、プログラムを企画した。

会費等の設定

参加費	会員	非会員	学生	懇親会	一般	学生
事前参加登録	8,000 円	12,000 円	3,000 円	事前参加登録	8,000 円	4,000 円
当日参加登録	12,000 円	15,000 円	4,000 円	当日参加登録	10,000 円	5,000 円

講演要旨集：3,000 円

市民公開講座：無料

共催ワークショップ（予約制）：無料

事業内容

1. メインテーマ 再興、再考、創ろう最高の医療の未来
2. 年会長講演 1 題
3. 日本医療薬学会学術貢献賞受賞講演 1 題
4. 日本医療薬学会奨励賞受賞講演 2 題
5. 日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演 5 題
6. 特別講演 3 題
7. 教育講演 3 題
8. 日本医療薬学会・日仏薬学会共催特別講演 1 題
9. シンポジウム 41 セッション
10. International Symposium 1 セッション
11. 教育セミナー 1 題
12. 一般演題 1,420 題(口演 218 題、ポスター1,202 題)
13. International Poster Session 24 題
14. スポンサーードシンポジウム 1 セッション
15. 共催セミナー 27 題 (ランチョン)
16. 共催ワークショップ 2 題
17. 市民公開講座 2 題

参加者数 一般参加者数： 5,962 名
 招待者数： 142 名
 懇親会： 322 名 (招待者除く)
 市民公開講座：約 120 名

一般参加者内訳参考資料

参加者内訳	正会員	非会員	学生	合計
事前登録	3,277	966	147	4,390
当日登録	762	706	90	1,558
中国・韓国		14		14
一般参加者計	4,039	1,686	237	5,962

運営組織

年 会 長	眞野 成康	東北大学病院
組織委員長	島田 美樹	東北大学病院
事務局長	佐藤真由美	東北大学病院
組織委員	我妻 恭行	東北薬科大学
	渥美 久義	宮城社会保険病院
	阿部 清彦	仙台社会保険病院
	石澤 文章	NTT 東日本東北病院
	板垣 史郎	弘前大学医学部附属病院
	伊藤 功治	東北労災病院
	岩崎 雅弘	スズキ記念病院
	遠藤 武弘	光ヶ丘スペルマン病院
	尾形 勉	仙台徳洲会病院
	金沢 久男	大館市立総合病院
	木皿 重樹	東北大学病院
	工藤 賢三	岩手医科大学附属病院
	栗村 淳子	広南病院
	黒須 真弓	こだまホスピタル
	後藤美紀子	公立刈田総合病院
	佐賀 利英	東北大学病院
	佐藤 淳也	岩手医科大学附属病院
	佐藤 博	新潟大学医歯学総合病院
	佐藤 益男	みやぎ県南中核病院
	塩川 秀樹	竹田総合病院
	紫桃 君子	仙塩利府病院
	白石 正	山形大学医学部附属病院
	菅原真理子	つばさ薬局
	鈴木 直人	東北大学大学院薬学研究科
	高橋 克嘉	仙石病院
	栃窪 克行	仙台オープン病院
	富岡 佳久	東北大学大学院薬学研究科
	外山 聡	新潟大学医歯学総合病院
	豊口 禎子	山形大学医学部附属病院
	中隈 雅俊	登米市立米谷病院
	中島 繁美	仙台厚生病院
	中村 仁	東北薬科大学
	中村 浩規	東北公済病院
	新岡 丈典	秋田大学医学部附属病院
	二木 彰	宮城県立こども病院
	早狩 誠	弘前大学医学部附属病院
	久道 周彦	東北大学病院
	平澤 典保	東北大学大学院薬学研究科
	平塚 真弘	東北大学大学院薬学研究科
	松浦 正樹	東北大学病院
	三浦 昌朋	秋田大学医学部附属病院
	村井ユリ子	東北大学病院
	村田 亮	いわき明星大学
	若生 健司	栗原市立栗原中央病院

事業成果

第 23 回日本医療薬学会年會を、平成 25 年 9 月 21 日（土）、22 日（日）の 2 日間、仙台市青葉区の仙台国際センター、東北大学百周年記念会館川内萩ホール、並びに東北大学川内北キャンパスにおいて開催したところ、招待者を含め 6,000 名を超える参加者となった。大型のコンベンション施設を持たない仙台での開催としては、最大級の規模となった。また、年會前日 9 月 20 日（金）には、例年通り、日本病院薬剤師會主催の平成 25 年度日本病院薬局協議會／學術フォーラムを仙台国際センター大会議室（萩）にて開催した。

本年會のテーマは「再興、再考、創ろう最高の医療の未来」とし、震災からの復興、薬剤師業務の再考・再構築、目指すべき未来の医療・創り上げる最高の医療、と幅広いテーマのもとでの開催となった。特別講演は、工学系の研究で生み出した技術を持ち込んで再生医療を飛躍的に前進させた、一般社団法人日本再生医療学会理事長であり、東京女子医科大学先端生命医科学研究所所長・教授の岡野光夫先生に「再生医療の実現と普及への挑戦」と題して再生医療の最先端についてご講演いただいた。さらに、薬学出身の作家・瀬名秀明先生から「未来を創造し、描くことについて」、一般社団法人日本病院薬剤師會会長の北田光一先生から「薬剤師職能の確立に向けて」と、これからの薬剤師や医療の未来、激変する環境の中における薬剤師のあるべき姿についてご講演いただいた。教育講演は、東京大学医学部附属病院教授・薬剤部長の鈴木洋史先生に「薬物反応性の個人差」、北海道大学病院消化器内科の結城敏志先生に「分子標的薬剤の有害事象」、東北大学加齢医学研究所教授の渡辺彰先生に「日本人の死因第 3 位に上がった肺炎！抗菌薬治療はどこまで進んでいるか？」の計 3 題をご講演いただいた。また、初めての試みとして、日本医療薬学会と日仏薬学会の共催で FIP Hospital Section の会長である Jacqueline Surugue 先生に「Future in Healthcare: new opportunities for Pharmacists」という演題でご講演いただいた。

市民公開講座は、国立医薬品食品衛生研究所安全情報部の畝山智香子先生から「いわゆる健康食品やサプリメントの安全性について」、内閣府食品安全委員会の山添康先生から「食品やくすりの安全性評価のしくみと私達の生活」と題して、健康食品やサプリメントに焦点を当てご講演いただいた。食品の放射能汚染や氾濫する健康食品などに関する内容で、食の安全に関心のある一般市民だけでなく、患者に説明する機会が多い薬剤師も多数聴講していた。

シンポジウムはテーマを提示したうえですべて公募とし、国際シンポジウム、スポンサーシンポジウムを合せると過去最高の 43 セッションを実施した。内容は多岐にわたり、医療復興や災害医療、チーム医療、多職種連携、病棟業務、リスクマネジメント、医療情報システム、教育関連のほか、CKD、糖尿病、認知症など疾患を切り口としたシンポジウムも企画されいづれも盛況であった。日本病院薬剤師會が認定する各専門領域に関連するシンポジウムも多数あり、そのうち講習會として承認されたシンポジウムは、がん、精神科、感染制御、妊婦・授乳婦、HIV 感染症の各領域で計 5 つのセッションとなった。本大会では口演会場として 14 会場を設置したが、約 1,000 席の会場が 2 会場、約 500 席の会場が 1 会場、約 400 席が 3 会場、約 300 席が 2 会場、残る 6 会場は東北大学川内北キ

キャンパスの講義室を使用した 160 から 200 席の会場であった。そのため、予想入場者数に応じた会場設定を優先し、さらに、同じ領域のシンポジウムを同一会場で継続聴講できるようプログラム構成を工夫した。川内北キャンパスの 160 席の 4 つの会場には同時中継会場を準備したが、200 席の第 13 会場には準備できず、21 日午前のシンポジウム 22「病棟における注射剤業務展開の戦略 - 配合変化、微小異物、実臨床の問題解決を目指して -」では入場制限を行った。全体としてはおおむね良好な会場設定であったと思われる。また、教育セミナーは「薬剤疫学の実例と研究デザイン」という薬剤疫学研究の基礎について、事例を交えて議論した。

一般演題は、口頭発表とポスター発表を合わせて 1,425 題を採択した（採択後の演題取り下げ 5 題）。今回の会場手配で一番苦勞した点はポスター会場の確保であり、International Poster Session 会場を除いても 4 会場に分散したうえ、1 日目と 2 日目でポスターを張り替えることとなったが、演題数を制限することはせず多くの参加者による討論が可能となった。

ワークショップは、日本薬科機器協会ワークショップと合わせ 3 企画の実施となった。褥瘡モデルを用いた薬物療法、高機能患者シミュレータを用いたフィジカルアセスメント、抗癌剤調製支援システムを用いた調製実習など実践的な内容であり、参加者からは好評を得た。会場周辺には昼食をとる飲食店が十分ではないことから、ランチョンセミナーは 2 日間で 27 企画を準備した。会場に合わせた席数となったが、なかには 700 席、900 席のセミナーもあり、多くの参加があった。ランチョンセミナーは例年通り、事前登録により整理券を年会参加証と共に郵送しており大きな混乱はなかった。

2 日間の年会日程に多種多様な内容を盛り込むために、タイトなプログラム編成と多くの会場での講演実施となった。会場は大きく 3 つのブロックに分かれており、各会場間の移動を容易にするためにシャトルバスを運行した。また、仙台駅から会場へのシャトルバスは 1 日目の朝にかなりの待ち時間が発生し、参加者にご迷惑をお掛けすることとなった。2 日間とも好天にも恵まれ、気温が例年では考えられないような 30℃近くまで上がったことから、冷房のない川内体育館（ポスター会場、薬科機器展示会場）には急遽扇風機を手配した。川内北キャンパス講義棟は会場ごとに空調の設定変更ができず、参加者の多い会場では窓を開けるなどの対応をとった。各会場で具合が悪くなる参加者がでなかったことは幸いであった。年会参加登録については、より厳密にし、来年からは会員管理システムを利用することでより適切な対処が可能となる予定である。

年会に参加してもプログラムの一部のみの聴講となることから、特別講演、シンポジウム等は一部を除いてアーカイブ化し、年会終了後、年会 Web サイトにて閲覧できるようにした。聴講できなかったプログラムもぜひご確認いただきたい。

最後に、本年会がテーマに沿った有意義なものとなったこと、再興、再考、最高のため大きな一歩となったこと、また、大きな事故もなく滞りなく開催できたことは、関係者の多大なるご協力によるものであり、感謝申し上げる次第である。